

トヨタエンジニアリング(阿南)開発

竹も燃やせる小型炉

機械器具設置工事業などを手掛けるトヨタエンジニアリング(阿南市)が、重油に代わり、木くずや竹を燃料とするバイオマス小型炉を開発した。従来の炉では難しかった竹でもスムーズに燃やせるのが特長。燃焼で得られた熱をハウス農園の暖房などに利用することで燃料費節約のほか、地球温暖化防止や竹林対策につながる点をPRし、農業者からの受注を目指す。

バイオマス小型炉は、通常の幅5畳、高さ6畳、奥炉で竹を燃やすと溶融行き1・2畳。スイツ灰が炉内に固着し、不手を入れると、タンク 具合を起こしやすい。に貯蔵された木くずや 開発した小型炉では緩竹が炉の中に入り、バ やかに温度上昇するよーナーで着火させる。 う工夫し、課題を解消発生した熱ガスで温め した。特許を出願してた水を配管でハウス内 いる。

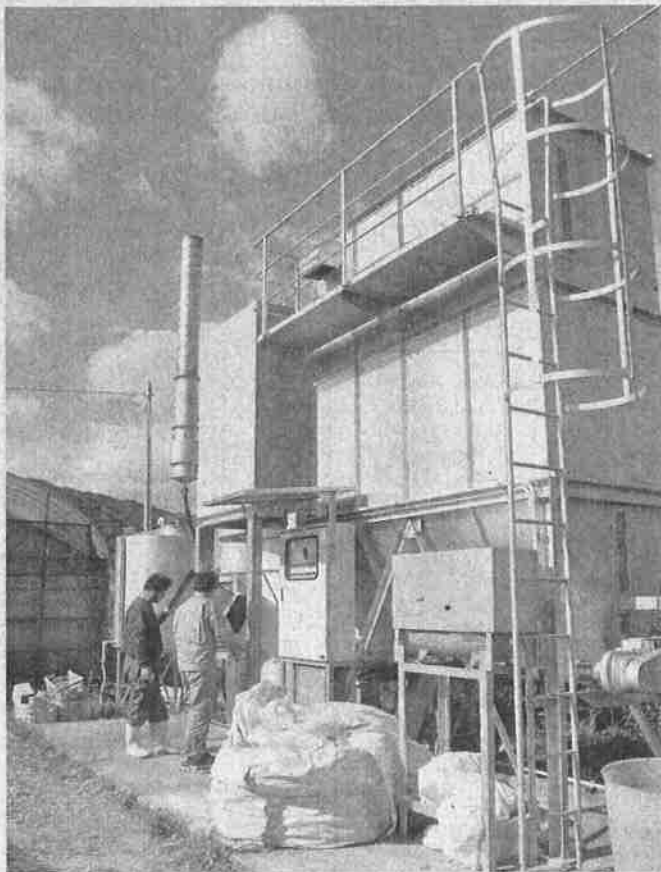
に送り込んで循環さ ハウスの加温では、せ、加温する仕組み。 重油を燃料とする加温トヨタエンジニアリ 機と小型炉の併用を想

灰の固着解消 特許出願

低コストハウス暖房

定しており、1号機は阿南市楠根町で洋ラン栽培を手掛ける松崎農園に試験的に設置。2016年1月に稼働販売価格は500万円。 (久保高茂)

し、2棟(計約千平方1千万円程度となる見込)に熱源を供給して込み。木くず、竹の供いる。これまでは高い給やメンテナンスサーときで年間200万円 ビスも行う。の燃料費が必要だった 豊田洋実会長は「農が、稼働後の1年は3業用だけでなく、温泉施設や漁業用乾燥設備



トヨタエンジニアリングが開発したバイオマス小型炉—阿南市の松崎農園